

審議会等議事概要

令和2年度 第1回滝川市いじめ防止専門委員会 議事概要

日 時	令和2年9月25日(金) 15:27~16:30
開催場所	滝川市役所 5階 庁議室
出席者	委員：百々尚美会長、中村泰江委員、高野清志委員、豊田收委員 事務局：山崎教育長、田中部長、廣瀬指導参事、寺嶋課長、佐藤課長補佐、 佐藤主査、秦野事務補
議 事	<p>1 開 会 進行：寺嶋課長</p> <p>2 教育長挨拶 山崎教育長</p> <p>・皆様、本日はお忙しい中ご参集いただき、ありがとうございます。 本委員会につきまして、平成26年に設置されております。いじめにつきましては、いじめの行為がなくなった時がゴールではなく、自尊心の回復や心の平穏がその子に訪れた時こそゴールだと思っております。今までも委員の皆様から貴重なご提言をいただき、それを参考に市として行政に活かさせていただいております。いじめ問題につきましては、事後対応だけでなく、市としてはそれ以上にいじめの未然防止を観点に事業を行っております。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止いたしますが、子どもたち自らが学校の枠を越えて、実際に行っていたいじめ防止の取組を発表する、絆づくり成果交流会なども行っております。子どもたちの意識そのものに働きかけるということでは、効果があるのではないかと思います。また、先日首相が変わり、少人数学級にするという意向が示されました。いじめや不登校等の改善について期待される場所がありますが、教師の増員や財源、実施時期等、まだ見えない場所がありますが、いじめ未然防止ということでは、意味深いことであると思っております。今後ともいじめ未然防止を着実に進めるべく、委員の皆様のご支援ご協力を受け賜わりたく、心からお願い申し上げます。</p> <p>3 委員紹介 事務局より委員の紹介</p> <p>(以後の進行は会長による)</p> <p>4 議 題</p> <p>(1) 報 告</p> <p>i 滝川市子どものいじめの防止等に関する条例の概要について</p> <p>ii 滝川市いじめ防止対策専門委員会の組織等の概要について</p>

iii 市及び市立学校におけるいじめの防止等に係る取組状況について

iv いじめアンケート調査（1回目）の結果概要について

i～ivについて、佐藤主査より報告

質疑応答

委員)

- ・嫌な思いをしたり、見たことがある数が減少傾向にあり、先生方の丁寧な関りが実を結んでいると実感しました。新型コロナウイルス感染症に伴い臨時休業が続き、学校にいる時間が1学期は短かったと思いますが、そういったことは調査結果に影響が出ているのかお伺いいたします。

事務局)

- ・授業日数が減った影響もあり、嫌な思いをしたり見ている数が減少しているのではないかと考えております。別の観点から見ますと、いじめではなく心に不安を抱えていることで、不登校が増えてくるのではないかと考えておりましたが、特に影響はありませんでした。

委員)

- ・嫌な思いをしたり、見たことがある数が減っている点につきまして、先生方の努力が実を結んだと思います。減少の要因の1つとしましては、コロナ過の影響で子どもたちの接触時間が少なくなったということが考えられます。一時は学校に通うこともできず、家庭で過ごしていたので、子どもたちは人恋しさを感じているのではないかとと思います。少ない接触時間の中で、密な関係を保とうとして、絆が芽生えているのではないかと期待をしていますが、いかがでしょうか。

事務局)

- ・6月から学校が再開され、それまでは友達と接する機会がなく、登校ができることや、友達と一緒に勉強や運動ができる喜びにより、絆が芽生えてきていると考えております。そういったことから、嫌な思いをしたり見ている数の減少に転じてきていると考えられます。

委員)

- ・いじめの数は、全体的に少なくなってきていると思います。行動的に考えると、集団でどのような動き方をしているのかによって変わり、世の中の様々な課題が、子どもの家庭や地域に反映されます。また、年度別の集計結果ではなく、ある学年がその前の年はどうだったのかといったことや、いじめが減った原因等の分析が大事だと思います。また、不登校の生徒の中で「自分はいじめられてない」と、いじめられていることを抹消させようとしてしまうことがあります。いずれにしても、いじめがあった場合には、早期発見、

早期治療しかありません。先生方が時間に余裕がない中で、かなり成果は上がってきていると思います。ソシオメトリック・テストを行った時は、誰がどのような付き合いをしているか、構造が見えてきました。その中で、誰かとまったく繋がらない子どもがいて、そういった子どもは学級を持って指導していてもなかなか見えてこないです。アンケートの取り方によっても、誰と誰が繋がっているのか、学級の中で見えてくると思います。学級に40人近い子どもがいて、時間に余裕がなく、部活動等もある中で、先生方は一生懸命努力されているなど関心しております。

委員)

- ・いじめというのは、長期に亘って成立するものではなく、瞬時に起こり、油断できないということアンケート結果から再確認しました。

委員)

- ・現在市内では、どのくらいの不登校児童生徒がいますか。

事務局)

- ・8月時点では、小学校で9件、中学校で25件となっております。その内、いじめが原因となる不登校につきましては、報告がありませんでした。

委員)

- ・嫌な思いをしたり、見たことがある数について、6年生だけが増えておりますが、原因があるのかお伺いいたします。

事務局)

- ・6年生につきましては、いじめについての認識が広がっているからではないかと考えております。

委員)

- ・嫌な思いをしているのを見たり、聞いたりしたことがあると答えた小学校6年生につきましては、令和元年11月の小学校5年生のデータから見ても増えていきます。しかし、自分自身が嫌な思いをしている数につきましては、減ってきていますので、期待は持てると思います。これは、先生方の教育の賜物かと思えます。いじめの認識を知識として持つことができたと思えますので、そういったことを学級を通して、先生方のフィードバックをいただければ今後の授業に活かされると思えます。令和元年の5年生の授業で工夫したことや、それが子どもたちにどの程度定着したのかという、フィードバックがあればいいと思えます。

(2) 協 議

i 滝川市いじめ防止専門委員会の事業計画について

ii いじめに関する通報・相談状況について

iii いじめ認知状況について

i について、佐藤主査より説明

質疑応答等

特になし

ii～iii について、佐藤主査より説明

質疑応答等

委員)

- ・長い間いじめに気付かずにいると大変ですので、早期に発見し、すぐに対処をしていくと解決しやすいと思いました。

委員)

- ・資料 No. 7、再発防止に向けた指導の中で、「つく指導」についてお聞かせください。

事務局)

- ・授業以外に、休み時間等にも子どもたちの側において見守る指導のことです。

委員)

- ・1つ目の事案につきまして、受理日が4月15日ということで、進級してすぐの訴えだと思えますが、加害側の主とする生徒につきましては、年度をまたいで要観察をしてもいいと思いました。小学校の時にトラブルを起こしていて、中学2年生に進級して再度トラブルを起こしているということですので、再び何か起きた時に、言葉で攻撃するという癖が出てしまう可能性があるため、見守る必要があると思います。

委員)

- ・加害者の子ども等に直接言わないでほしいといった、隠すという傾向があるのでしょうか。

事務局)

- ・公にしないで指導してほしいといった保護者や子供が、最近増えてきていると思います。しかし、こういったことが増えていきますと、いじめの認知に向けて、学校は調べるのが難しいという状況も起きてくると思いますので、この委員会の中で何かご助言等をいただきたいと思います。

委員)

- ・名前を出すことにより、そのことについてSNSに載せるといったことなどもあり得るので、名前を伏せてほしいという保護者がいると思います。しかし、保護者と話をして名前を聞いて、名前が出た場合、しっかり解決をしていただきたいと思います。

委員)

- ・個別指導ではなく、全体指導を希望される保護者は多いと思います。相談に来てくれたり、学校に保護者が電話して、その糸口から先生方が個別指導ではなく全体指導するという形でも、解決に近づいていければ、それも一つの手立てだと思います。

委員)

- ・保護者会等を通じて、全体指導という方法があることを周知した上で、困りごとがあれば、隠すことなく、担任やスクールカウンセラー等、訴えていただける場があることを伝えることができればと思います。そのような場があるということをご承知していただければ、ちょっとした問題を抱えていると思ったところで、すぐに対応しやすいと思います。併せて、地域全体で見守っているということも伝えていただければいいと思います。

委員)

- ・各学校の先生方は、様々な機会に相談窓口についてお話しされていると思いますが、嫌な思いをした時、誰にも相談しないという子どもが、市内小学校6校の1～2年生集計で、低学年の時点で2%もいるということ、市内小学校6校の3～6年生集計で4%、市内中学校4校の1～3年生集計で5%いて、誰にも相談できない子どもが、学年が上がるにつれて増えてきていることが気になりました。高校生になると10%の生徒が誰にも相談できなくなっているため、今回の目的である、自尊心を芽生えさせるというところのサポートとして、授業の中で、人に話をするのは悪いことではないということや、様々な窓口があるということ伝えていただければいいと思います。

委員)

- ・新型コロナウイルス感染症の終息が見えていなく、いつ誰が感染してもおかしくない状況だと思いますので、子どもたちや保護者が感染した時、いじめが起こらないように、呼びかけを事前にする必要があると感じました。また、嫌な思いをした時に、繰り返し誰かに相談することは、大事なことだということを伝えていければいいと思いました。

事務局)

- ・学校においても、新型コロナウイルス感染症に関わるいじめは決して許され

	<p>ないということを日常的に指導しているところです。滝川市内においても、「滝川市新型コロナウイルス差別防止宣言」というものを出しておりますので、それに基づいて今後でも取り組んでいければと思います。</p> <p>5 次回の会議開催 予定日：令和3年2月下旬（予定）</p> <p>6 閉会</p>
会議資料	会議次第